

第1回経済学部新入生を対象としたインターネット導入講習会 ～イントロネットプロジェクト 事後報告～

平成11年4月20日
イントロネット担当 須賀 雅美

イントロネットプロジェクトの目的

平成11年度からオリエンテーション期間中に経済学部の新入生全員に対してコンピュータのユーザ番号を交付し、インターネットの導入講習を行うことにしました。この講習会は、新入生の皆さんが実際にインターネットの世界を体験することによって、コンピュータを使うことの楽しさを実感して頂くことを目的としています。

この講習会は、経済学部の情報化を一層進めたいと思う望月宏ゼミナールの学生が、新入生の皆さんに直接指導する形で行いました。

講義内容

1. インターネットの利用説明

インターネットは、世界中のコンピュータが通信ネットワークで相互に接続されたネットワーク集合体です。情報通信技術の進歩とパソコンの普及により、世界中の最新情報を入手したり、コミュニケーション手段としての利用が盛んになっています。

2. ネットサーフィンの手順

主に、経済学部のホームページを利用し、「専任教員の紹介」や「ホームページ集」などのページを紹介しながらネットサーフィンの概念を説明しました。

3. 電子メール

今回の講習会では、テストメールのアドレスとしてgoという名前を指定しました。

宛先には、go@isc.senshu-u.ac.jpと入力して頂きました。この宛先は自動で返信メールが届くように設定されていて、返信メールを受信した学生が達成感を味わうことができるように工夫しました。

確認メールの内容

祝メール成功！！

あなたのメールは確かに受け取りました。
これからもどんどん使ってくださいね！！
経済学部イントロネット担当者一同 平成11年4月8日

4. 再起動の手順

利用中のアプリケーションソフトをすべて終了させる操作です。

5. インターネット利用上の注意

インターネットを利用する際に心得ておかなければならない最低限のルールを説明しました。

6. アンケート

今回の講習会の感想などを書いて頂きました。

新入生に対するアンケートの集計結果

新入生に対し、今回の講習についてのアンケートを実施したところ950人からの回答がありました。

アンケート結果

問1 あなたはこれまでコンピュータを使ったことがありますか？

はい 71.44% いいえ 28.56%

問2 あなたは、Eメールを利用したことはありますか？

はい 8.98% いいえ 91.02%

問3 あなたは、ネットサーフィンの経験はありますか？

はい 11.13% いいえ 88.87%

今回の講習会について1～5の5段階評価した結果

問4 ネットサーフィンについて

3.09

問5 Eメールについて

3.10

問6 コンピュータシステムについて

2.94

問7 今日の講習会全体の評価をお願いします。

これらの結果をもとに、問 7 の講習会全体の評価を決める要因は何かということを知るために、回帰分析を行いました。

その結果、問 5 の E メール理解度を問う設問が、問 7 の評価を決める一番の要因となっていることがわかりました。つまり、この結果は E メール操作を理解し、確認メールがきちんと届き、メールを送ることができたという達成感を得ることができた学生は、講習会全体の評価を高くしているということを示していると考えられます。

回帰分析の結果以外にも、講習会全体の評価を左右する要因はいくつか考えられます。まず、一つ目の要因として講習の内容が挙げられます。あるクラスで代表的なサーチエンジンである Y A H O O を紹介したところ、コンピュータ初心者学生にも経験者学生にも大変好評で、学生に最も高く評価されました。これは、コンピュータの基本的操作だけではなく、普段コンピュータを使う際に役立つような応用的な情報を学生に提供したことで、学生が興味を示したということを表わしているのではないのでしょうか。もう一つの要因として、講師として講義を行った学生一人一人の技量が挙げられます。コンピュータに対する知識の度合いや、講義の仕方が評価に大きく関わっていると考えられます。

ゼミ生に対するアンケート結果（一部抜粋）

問 1 インターネットを既に分かっていた学生の反応はどうでしたか？

白木 学

来年以降は経験者にも対応した教科書、授業の進め方を考えなければならないと思う。

鎌田 大介

経験者も自宅などとは違い学校でのログインの仕方など、ある意味特殊な方法であったと思うので、全体の進行状況に従って真剣にやっているように見えました。

小川 剛史

経験者にとっては少々物足りないものだった。
そのような生徒でも自分の見たいサイトを勝手に見ることはなく、経済学部

ホームページを隅々まで見ていた。今回は触ったことのない生徒に使い方を教えるということだったので、出来る生徒もそれを理解し、授業の流れに沿って出来ない人に合わせてくれたので教えやすかったと思います。

高地 良典

ここ1～2年の間は圧倒的に未経験者が多いと予想されるが、今後経験者に対応する指導方法も検討する必要があるかもしれない。

金子 渉

やや退屈そう

気の利く人は隣の初心者に教えてあげていたので、その点では楽でした。

問2 講師の授業を進めるスピードは早かったですか、ちょうど良かったですか、遅かったですか？

堀 容子

パソコンにはじめて触れる人にとってはちょうど良いスピードだったと思いますが、もう既に知っている人たちにとってはとても遅かったように感じます。その差が極端だと思いました。

吉沢 裕典

全体的にゆっくりだった

問3 授業のスピードと学生の理解度との関係はどうでしたか？

高地 良典

アシスタントの数を増やせば、学生の理解度を落とすことはないように思います。

小川 剛史

早過ぎると、自分が何をやっているのか分からなくなる学生が多くなります。メールを書くのかインターネットをやるためにこの作業をしているのか分からず、ただ言われたとうりに進めている、と言うのでは次に自分一人でパソコンを操作するときにこまります。

自分が何の為にこの作業をやってる、と言うことがしっかり理解できるスピードが一番好ましいと思います。

ゆっくりでも確実に教えていけばトータルでの時間が減少するのでゆっくり、そして確実にが一番イイと思います。

大内 伸哉

初心者に合わせたスピードで行う方が、理解度は高いと思われます。

問4 講師の教え方に改善すべきところがあれば何でしょうか？

金子 渉

専門的な用語を無意識のうちに使ってしまうことがあり、その点は改善すべきだと思います。

湊谷 崇志

「教える」ということに慣れるような機会を増やす

山村 直子

生徒の画面をチェックしながら授業を進めると良いと思います。

高地 良典

マイクを持った講師が学生の周りを巡回するようなスタイルが検討される

堀 容子

基礎的なことだけでなく、ちょっとした応用や、これからの学習に役立つようなホームページやインターネットの使い方なども説明に加えてあげたほうが、もっと興味を持ってくれたのではないかと思います。

問5 講師の教え方で良かったと思う点をあげて下さい。

山村 直子

私が担当した時、先輩方の勧めで、教室内を歩きながら生徒の画面をチェックしつつ授業をし、それと同時に、先輩が、大画面で指示をしながら授業を進めたのですが、講師は、生徒の理解状況が、良く分かるし、逐一適切なアドバイスを大画面とマイクを通して教える事が出来たので、授業の効率を上げたのではないかと思います。また、先輩が、空き時間を使ってインターネットの楽しさをよりしってもらう為に、YAHOO JAPAN を教えていました。これはとても良い案だと思います。

小川 剛史

まず、テキストを作る段階で、最近までパソコンを使えなかった生徒の意見を取り入れて、わからない人の立場にたったテキスト製作が良かったと思います

す。教える人が生徒、と言うことは痒いところに手が届くと言う意味で有効だと思いました。

そして、何事も初めての体験は重要です。そこでどのような質問でも親切丁寧に受け答えした講師の態度がよかったと思います。

問6 学生がつまづいていた点は何だったのでしょうか？

大内 伸哉

キーボードのキーの位置がまだ把握できておらず、どこにあるか、またどのキーを押せば良いのかでつまづいていたのではないかと。

堀 容子

コンピュータ用語がわからないことだったとおもいます。私たちもなるべくわかりやすいように説明していたつもりですが、ついつい出てしまう用語で、わからない用語だったりすると戸惑っていたようです。

両角 卓馬

講師説明やサポート画面、テキストの3つのどの説明に集中すれば良いのかわからずにいたことです。そのためこの3つの説明を一本化する必要があると思います。

鎌田 大介

メールの送信の際のアドレス入力ミスで、受信ができずにつまづいている学生が少しいました。また今回は練習用のアドレスでしたが、実際にメールを活用する時との違いを理解できていない学生もいたように思えます。

問7 授業の流れと全体の時間構成はいかがでしたか？

大内 伸哉

時間構成はもう少しネットサーフィンの時間を増やし、様々なホームページを見る時間を与えた方が良いのではないのでしょうか。

大野 里美

y a h o oとかサーチエンジンを教えていろいろ自由にやらせると楽しさがよりわかるとおもいます。

(外回りの人へ) 問8 人の流れとそのさばき方に改善すべき点はありましたか？

両角 卓馬

私は8階の担当でしたが、8階は新入生がそれぞれの行くべき場所を良く認識していたために、必ずしも必要ではないと思います。来年度も8階に誘導を置くのであれば、外と室内の誘導員の担当場所をセッションごとに変える必要があります。

河合 信貴

私は4階担当だったのでしたが、2人だと多少きつい場面もありました。特に教室ごとに一列に並んでもらうときに後ろのほうの人がどこがどこかわからなくなっていたようです。立て看板を置くか、もしくはもう一人、二人その時だけ人が欲しかったです。

問9 来年へ向けての課題は何でしょうか？

大内 伸哉

課題はやはり、経験者と初心者のどちらにも関心を持ってもらえるような対応が必要だと考えます。(あと、確実に全員にメールが届くようにすることも必要だと思います。)

湊谷 崇志

来年は経験者用の部屋と、未経験者用の部屋に分けて、経験者のほうをよりレベルの高いことを教えてみてはどうでしょうか？

小川 剛史

もし順調に進んでいるのなら yahoo による検索、そしてブックマークへの登録まで出来れば素晴らしいと思います。その為には丁寧そして正確に教え時間を確保する指導が必要になると思います。

． 1．今年度の設定が決まる以前にテキストを作ったので、テキストの内容に不備があったこと。2．ログオン情報の画面の時入力が遅いとログオンの画面に戻ってしまう学生が居た事。3.NT の設定の時に名前をローマ字で入力して下さいといったらスペースの入力の仕方が分からず名前と苗字の間が繋がってしまった学生がいたこと。

問10 イントロネットプロジェクトに参加したことによって、何を得ましたか？

金子 渉

いかにして相手の分からないことをこちらが理解するかが課題だと思います。こちらが理解していること、当たり前前が初心者にとってまるで分からないことであることの認識が必要のようでした。相手の気持ちを考えることが、一番基本的なことですが、同時にもっとも難しいことでした。

湊谷 崇志

主に誘導係をやっていたのですが、適切な情報を教えないと道を間違えてしまったり、分からないからと繰り返し説明しなければならないときがあったので、説明の仕方なども学び発表のときに役立てたらと思いました。

高地 良典

本当に得たものは大きかったと思います。まず、パソコンスキルが向上したことです。テキスト製作に何日も学校に通って作った甲斐があり嬉しいです。また、いくら推敲を重ねても重ねても改訂があり仕事の難しさと同時に面白さも分かりました。そして、プロジェクト遂行のための協力体制の大切さを実感しました。

鎌田 大介

一番感じたことはゼロからプロジェクトを立ち上げていく難しさです。全て初めであるため、起こり得る問題点を想像しながら取り組んで行く作業はとても困難であると思いました。ただ初の試みをやり遂げ事に対して、他では得られない特別な達成感を得ることができたと思います。

小川 剛史

一つの仕事を完成させる大変さを学びました。すべて準備出来た、と言うところから本当の仕事が始まります。

問 1 1 その他何でもいいですから気がついた点をあげて下さい。

大内 伸哉

ネットサーフィンのことなんですけど、来年からは受講者が見たそうなホームページのアドレスをあらかじめ教科書に載せておくといいのではないのでしょうか。

堀 容子

応用で、こんな事もできるし、こんなに便利な使い方もできるんだということをおもいます。説明会内ではできないことなら、せめてテキ

ストにもっと細かいことも載せてみるのも良いと思います。例えば、学習や、大学生活に役立つ情報が載っているホームページの一覧とか。

湊谷 崇志

パソコンをやったことがある人と無い人をあらかじめ分けておけば、やったことがある方のクラスはスピーディーにできるだろうし、循環も早くできるのでないかと思いました。

山村 直子

入学直後に、イントロネットを開催した事が、大きな成功を導いたのではないかと思います。今回の目標は、一年生が、パソコンをこれから、利用しつけていく事にあるので、今後の利用状況を知りたいです。これを知ってからでないと、本当に大成功とは、言えないと思います。また、そのために、教本であった白い冊子に、パソコンの利用時間・利用可能な場所等を記載した紙を添付すると良いのではないのでしょうか。

問題点と今後への課題

今回のインターネット導入講習会は初めての試みでしたので、あらゆる問題を想定しながら手探りの状態でプロジェクトを進めていきました。その結果いくつかの問題点が発生しました。

第一番目として、当初から懸念していた事柄ですが、一度にたくさんの学生がインターネットにアクセスするため、メールの送受信がうまく行かないのではないかと思います。実際、各クラスで数人の学生が、回線の混雑が原因で確認メールを受信することができませんでした。今後の課題として、各クラス間でネットサーフィンを行う時間帯を調整する必要があると思います。

二番目として、学生誘導の人員配置の仕方です。当初 8 F から端末室に来る学生の混乱を予想していましたが、実際にはスムーズに移動することができていたようです。逆に、4 F の誘導人員が足りず、ごった返してしまったようです。8 F には人員を配置せず、4 F に人員を増やすことが求められます。

三番目として、テキストの作成についてです。今年度からネットスケープの表示がすべて日本語となりましたが、日本語表示に切り替わる前にテキストを作成したので、テキストの表示が英語となってしまったことです。

四番目として、講義内容についてです。初めての試みのため、学生がどの程度講義内容を理解してくれるかどうかということが全く掴めませんでしたので、今回は必要最低限の内容（電子メール、ネットサーフィン）だけを講義で取り扱うことにしました。しかし、学生は思いのほかこちらの指示する内容に素早く反応してくれていました。したがって、サーチエンジンを紹介したり、コンピュータやインターネットの概念をもう少し詳しく説明するなどして、内容に幅を持たせても良かったのではないかと考えます。

今後への課題として、前述した四つの問題点を改善し、来年度のインターネット講習会が今年度よりも完成度の高いものとなるよう努めることが、私達に求められている最大の課題であると思います。また、新入生の皆さんがコンピュータを積極的に活用し、4年間の学生生活を有意義に過ごして頂くことを切に希望します。

最後に、今回のイントロネットプロジェクトの趣旨に賛同し、ご協力くださった皆様に感謝いたします。